

## 44 米須按司の敵討ち

米須按司はですね、その米須按司のウナザラ（王の奥方）ですよ、奥さんがですね、とっても美人ですね、美人であつたもんですね。その隣の奥方ですよ、大度ですね。向こうの按司がですね、その米須按司の奥さんを欲しがつてさ。して、米須按司はですね、浜の遊びですね。こつちに大度浜つてありますよ。大度浜つてところがありますよ。これまた港がですね。そこに大度按司が誘つてね、

「浜の船遊び、行きましょう」と言つてね。して、向こうで船遊びする時にですね、海でさ。もう酒もどんなやつてですね、もうこれ殺してですね。米須按司を。

して、米須按司はもう向こうに何だから、ここに、その浜端にですね、玉壺といつてですね、岩の掘ったのがですね。それは、潮が満潮の時はそつちは潮が入ってきますがね。そして、引き潮の時はですね、引き

潮は何ともないですわね。して、ここにですね、米須の按司はですね、大度の按司に殺されて。してもう、向こうから流れて来てですね、その玉壺に入つたらしいですね。それをここのですね、米須城主の、按司の飼犬がですね、もう、奥さんのね、着物をですね、裾を引っ張つてね。そして、

「珍しいね」つて。何となしても全然行かないつてさ、この犬は。したらもう、その犬がする通りに奥さん、行つて見たらですね、自分の按司ですね、主人が殺されて死んでゐるつて。して今、ここにその城址の、お城の上の按司の墓はですね、按司の墓とですね、それからまた犬の墓といつて、ありますがね。その犬のためね、この按司が向こうに死んでゐるのを連れてきてお守りしたから。して、その犬もやつぱし墓を造つて入れてあつたんですがね。

したらまた、この大度按司がですね、もう自分はですね、米須按司を殺したもんだから、もう自分の妾にするとつて、嫁にするとつてですね、したらしいですよ。したから、したもんですね。したたらあの土地は、米須按司の、それはもうとっても大木が、大

きな木が生えていたらしいです。したらその、米須の

また按司の奥さんがですね、ウナザラですね、その人はもう頭がとっても敏感だったらいいですね。して、その奥さんがですね、五寸釘ですね、釘を、釘とゲンノウとを隠して持つてさ。してもう、この大度の按司のですね、

「あんたがこつちを嫁にするんだつたらね、立派な家を造つてからね。じゃなかったら、うち行かない」つて言つたもんだから、

「そうか」と言つてですね、向こうの按司は。してその、米須のウナザラがですね、

「あんたがこうしてしてね、このぐらいのね、木を切つてさ、それであの、家を造つたらね、行く」と言つたら、本氣にしてですね。

してその、ウナザラとですね、その大度按司が歩いてですね、木を測つたらいいですよ。そしたらこの米須按司の奥さんは、ウナザラはですね、どうしてその夫の、米須按司の敵を取るかといつて、それを考えておつたもんだから。そしたらもう、

「もうちよつとこうして案内して下さい」言つてです

ね、ここで自分のこうしてしてるからね、

「もう少し。もう少し締めて、もう少し締めて」と言つてね。そして、こうなつたらですね、自分の五寸釘持つておるんですがね、そおと。大分こつち大きいんだから、向こうの太さ、大度按司はこうして喜んでもうやつておるんですよ。向こうにですね、釘を打ち込んでですね、釘。釘でもうされてからもう動けないでしょう。それでその、敵を取つてですね。米須按司の奥さんが大度の按司を殺したということですね。

字米須 仲宗根善道

類話

字大度 高嶺 正